

教員養成の目標及び目標を達成するための計画（幼稚園 1 種課程）

本学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく国際人の育成」（学則第 1 条）である。キリスト教精神にもとづく教育実践の特徴は、一つは「他者の痛みを理解できる人間」の養成であり、もう一つは学園のモットーである「せん方尽くれども希望（のぞみ）を失わず」という、「困難な状況でも果敢にチャレンジする人間」の養成である。

本学幼稚園教諭の教職課程においては、建学の理念に基づき、子どもに対する深い愛情をもち、子ども・保護者の痛みにも共感し、どのような状況においても柔軟に対応できるしなやかさと、教育実践における困難な状況の中でも、最後まで粘り強く課題に立ち向かうたくましさや備えた教員の育成をめざしている。

また、近年、子どもを取り巻く環境はたくさんの課題に直面し、保育に対するニーズは多様化している。本専攻では、幼児教育の本質や目的、幼児教育の対象となる子ども、幼児教育の内容・方法についての知識や技能を修得すると共に、隣接領域を幅広く学ぶことにより、心身両面から子どもと保護者をサポートできる専門性をもった教員を育成する。また、体験的な学びを重視し、地域の子どもたちや保護者の方々との交流プログラムなどを通して教育実践力を高め、視野の広い豊かな人間性の育成を目指す。

上記教員養成の目標を実現するために、本学の学びは 3 つの分野から構成されている。

第 1 は、「保育士・幼稚園教諭の資格関連科目」の学修である。教育者としての使命感、保育・教育の本質及び制度の理解、幼児に関する理解、教科等の専門知識及び基礎技能など、幼児教育に関する基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用し実践する力を、少人数教育を通じて身につける。

第 2 は、「幅広い専門科目・教養科目」の学修である。本学群には、保育学専攻の他に、社会福祉学専攻、精神保健福祉学専攻、実践心理学専攻、健康科学専攻、スポーツ科学専攻があるが、専門性がより深まるよう、学生が隣接する他専攻等の科目も選択できる「マイナー制度」を敷いている。例えば、保育学専攻では、障害者や高齢者に関する福祉、身体健康、メンタルヘルスに関する専門知識等を学ぶことができ、これらの横断的学びにより、保育の専門分野においても、より広い視野や柔軟な実践力を身に付けることができる。

また全学必修科目として設定されているコア科目「キリスト教と建学の精神」を通して本学の建学の精神の理解を深めるとともに、日本語・英語の表現力や、情報機器の活用能力など、幅広いアカデミック・スキルの習得にも力を入れている。

第 3 は、正課外活動であり、ボランティア活動や、学生の主体的な企画、運営を基本とした保育学専攻独自のプログラムが用意されている。また、健康福祉学群全体の取り組みとして、学生の自主的な研究活動「学生研究会」があり、保育学専攻に関する主な研究会としては、「保育方法研究会」がある。これらの正課外活動を通して、企画力・構想力、リーダーシップやコミュニケーション能力、協調性や自己表現力など、さまざまな実践力の育成を図っている。